

## 平成 29 年度 第 1 回宮崎支部評議会の概要報告

開催日時	平成 29 年 5 月 24 日（水）9:55～11:50
開催場所	宮崎支部会議室
出席者	大迫評議員、佐藤評議員、秩父評議員、長鶴評議員、野崎議長、福島評議員、松浦評議員、安井評議員（五十音順）
議 題	<p>(1) 平成 28 年度宮崎支部事業実施結果報告について</p> <p>(2) 平成 29 年度各グループにおける事業説明について（企画総務部 企画総務グループ）</p> <p>(3) 平成 28 年度九州ブロック評議会の報告について</p> <p>(4) 平成 29 年度宮崎支部評議会スケジュール（案）について</p>
議 事 概 要（主な意見等）	<p>(1) 平成 28 年度宮崎支部事業実施結果報告について</p> <p>■資料に沿って事務局より説明。</p> <p>■主な意見や質問など</p> <p>&lt;企画総務グループ&gt;</p> <p>（被保険者代表）</p> <p>残薬削減の取り組みについて、残薬の可能性があるというのは、重複受診ということか。お薬手帳があるため、重複すれば薬剤師から指摘を受け、あまり残薬は発生しないと思うが、残薬の可能性がある件数は多いのか。</p> <p>（事務局）</p> <p>レセプトを分析し、残薬の可能性がある方を抽出し、アンケートを送付しましたが、件数としては多くありません。お薬手帳が十分には浸透していない、あるいは、複数の医療機関を受診しても全ての医療機関または薬局でお薬手帳を提示していない場合も考えられます。事業結果につきましては、10 月の評議会においてご報告させていただく予定です。</p> <p>（学識経験者）</p> <p>ジェネリック医薬品の使用割合が最も高い地域はどこか、また、その地域において何か特徴はあるのか。</p> <p>（事務局）</p> <p>最も高い支部は沖縄支部であり、使用割合は 80%を超えております。詳細はわかりませんが、米軍基地の存在や所得状況等もあり使用割合が高いのではないかと思います。</p> <p>（被保険者代表）</p> <p>アメリカは保険制度が十分ではないため、価格の安い薬を使うということになっているのでしょうか。平成 28 年 8 月に実施したジェネリック医薬品軽減額通知について金額的にどれくらいの効果が出たのか。</p>

(事務局)

宮崎支部における軽減効果額は、12ヶ月換算による単純推計では、年間約1億3,000万円です。

<保健グループ>

(被保険者代表)

来年度からインセンティブ制度が導入されるということで、生活習慣病予防健診、事業者健診データの取得について目標設定をどうするかということを考えていかなければならないが、健診受診率や事業者健診データの取得率について全国平均のデータはあるのか。

(事務局)

27年度のデータになりますが、生活習慣病予防健診と事業者健診を合わせますと50%くらいです。特定健診は、被扶養者も含まれるため40%台です。

(被保険者代表)

今後、目標をどう設定していくか、その目標に対してどうやってクリアしていく施策を実施していくかということが重要な要因になると思う。

(被保険者代表)

医療費、後期高齢者への支援金等で保険料率が決まるが、インセンティブ制度の導入により、評価項目について目標を達成できたかどうかということが保険料率に影響を与え、ダブルカウントになるということも生じるのではないかと。

(事務局)

インセンティブ制度の導入につきましては各支部において様々な意見が出ております。国の政策として実施することが決まっておりますので、支部としてどうやって評価項目における目標を達成していくかを真剣に考えております。宮崎支部の健診受診率は全国中位という状況です。

(使用者代表)

データヘルス計画について、現在の血压リスク保有率はどうなっているか。

(事務局)

平成26年度にデータヘルス計画を策定した時点では、男女計で43%台であったため、3%減らし40%以下にするという目標を設定しました。27年度から29年度までがデータヘルス計画の一期目であり、今年度が最後の年度になりますので、これまでの取り組みによる健診結果の改善等を分析したうえで、平成30年度からの二期目に向けて血压をテーマに進めていくかも含めて検討しております。

(使用者代表)

健診受診率が上がることにより、リスク保有率のデータが改善するという結果は出るのか。

(事務局)

受診率が上がれば、受診者数が増えることになり、リスクを保有している方が多ければ、リスク保有率は上がる可能性があります。

<レセプトグループ>

(使用者代表)

目標数値に対する達成状況において全ての項目で数値が上がっており、努力された結果であると思うが、点検を必要とする事案が増えたということはないのか。

(事務局)

平成 28 年度は 2 年に 1 回の診療報酬改定がある年に当たります。改定があるということは、改定された内容で算定誤り等が多くなるということもありますので、その点が関係しているのではないかと思います。

<業務グループ>

特になし

## (2) 平成 29 年度各グループにおける事業説明について (企画総務部 企画総務グループ)

■資料に沿って事務局より説明。

■主な意見や質問など

(学識経験者)

健康保険委員の委嘱状況について、適用事業所数からみた委嘱率は他支部と比較すると高いが、それでも全事業所における 1 割強である。小規模の事業所における委嘱が少ないことが原因ではないかと思うが、今後の委嘱拡大の方向性について伺いたい。

(事務局)

これまでは勧奨を年金委員に限定しており広報誌による広報をしておりませんでした。広報誌の活用により、全事業所に対して一斉に広報が可能となります。広報誌 8 月号で広報を実施する際に、宮崎支部作成のハンドブックを委員に配布するというお知らせも併せて掲載することにより、委嘱拡大につなげたいと考えております。

(使用者代表)

ジェネリック医薬品について、患者がジェネリックを希望し、医師がジェネリックで良いということになれば、さらに使用割合は高まるのではないかと考えるが、医師への啓蒙が必要ということになるのか。

(事務局)

県内の薬局はジェネリック医薬品の使用促進に熱心に取り組まれており、医療関係者の中でも徐々に理解が進んでいるのではないかと考えております。

(被保険者代表)

薬局に行くと最初にアンケートを記入するが、その質問項目の中に「ジェネリック医薬品を希望しますか」という項目がある薬局とない薬局がある。アンケートの中に、必ずその項目を入れてもらえるよう協力してもらえればよいのではないかと。患者の立場から、シールやカードで医師にジェネリックを希望する意思を伝えることは難しい。

### (3) 平成 28 年度九州ブロック評議会の報告について

■ブロック評議会に出席された評議員より報告いただきました。

(学識経験者)

宮崎支部の健康宣言優良事業所認定制度について資料を示し説明した。各支部でも医療費適正化に向けた取り組みをいろいろ工夫されているようだが、宮崎支部の取り組みも健康宣言事業所を増やしていくということで、良い方向に進んでいるという印象を受けた。

(使用者代表)

支部長をはじめ評議員の方々が熱心に討議・報告されていたという印象を受けた。九州各地域の情報交換という意味では大変有意義であった。特に保険料の考え方や今後のあり方、収支のバランスも含めてご意見を拝聴できた。協会けんぽが主体となり健康宣言事業の展開に向けて各支部が努力しているにもかかわらず、医療費 41 兆円、介護 13 兆円、合わせて 50 兆円という国家予算の半分に及ぶ医療費の問題について、国民全体の意識がどうなのかということを感じざるを得ない。健康寿命についても、メディアを含め国民全体で認識することが必要なのではないかと。

### (4) 平成 29 年度宮崎支部評議会スケジュール (案) について

■資料に沿って事務局より説明。

平成 29 年度宮崎支部評議会スケジュール (案) について了承いただく。

#### 特記事項

- ・傍聴 なし
- ・次回の評議会は、平成 29 年 7 月に開催予定